

日本と西欧における陰影の比較考察

— 現代詩の陰影表現を対象として —

A Comparative Study on the Shadows between in Japan and Europe

川崎 雅史*・荒川 英司**

Masashi KAWASAKI and Eiji ARAKAWA

In this paper we tried to draw a framework and conceptual model about shadow and shadow space in landscape to give new design vocabularies to urban design works. We abstract characteristic representatives about shadow and shadow space from modern Japanese poetries and classify the basic form of shadow space emerged in Japanese literary works.

1. はじめに

(1) 研究の目的

たとえば、都会の高層ビル群が夕暮れに創り出すシルエットは、現代の都市施設の素材や構成が景観的になら必然的な意図もなくつくられた景観であるが、映像メディアなどを通じて美的な評価を受けている例であろう。現代の都市が一般的に無機的で混雑とした風景として論じられる中で、色彩が消失する夕暮れ時のモノトーンの景には、都市の骨格の図像だけが浮かび、その静寂さは都市に生きる人々に一時の休息の場所を与える固有な景であると思われる。

このような都市景観における静的な空間を演出するための一つの手がかりとして陰影に焦点を当て、その意匠性を把握するために、筆者らは昨年度の発表会において、陰影の構成モデルや基本型を定義して¹⁾、西

欧の景観写真に現れる陰影の心理的評価を行った¹⁾。そこから、陰影のイメージ類型が得られ、西欧の乾いた日照から生じる明瞭な光と影の対比などの景観的な意匠性が把握できた。また、日本の伝統的空間に関して、「陰翳礼讃」に表現された陰影の意匠性を整理した²⁾。その結果、柔らかい光を取り込む採光と、土壁などの光の吸収性の高いスクリーン素材³⁾から生まれる陰影に、繊細な意匠性を見いだすことができた。これらの結果は、景観現象としての陰影が、気候と街並みや建築の素材および空間構成によって、その空間固有の図像として生ずるものであることを示すと考えられる。

そこで、本研究は空間に固有な陰影の意匠性をより明確に把握するために、日本と西欧の陰影とその背景にある気候や街並みの景観的な特徴を比較分析することを目的とする。そのための一歩として、日本と西欧の現代詩における陰影表現の差異を比較考察する。

現代詩は、詩人が自身の心象を表現する過程で、先鋭的な視点から現代の風景の特徴を捉え、短い言葉の中に特有な空間の写実とその美意識を反映した作品が

* 正会員 工修 京都大学大学院工学研究科

環境地球工学科助手

** 学生会員 京都大学大学院工学研究科

(京都市左京区吉田本町)

多く見受けられる。そこに表現された写実的な風景描写の中に、陰影が鑑賞の主対象となるような静的な空間の例を見出す可能性があると考えられる。また、構成要素を端的に特定しやすい対象でもあることから、本研究では現代詩を分析対象とする。具体的には、詩の中から陰影表現の部分抽出し、陰影の構成要素^{①)}、季節・時間および基本タイプ^{②)}の表現頻度を整理し、陰影の景観的な特徴を比較分析する。

なお、本研究を進めるに当たって、陰影の基本構成や基本型に関する用語は、注(1)にしたがうものとする。

2. 現代詩の分析方法

(1) 分析対象詩の選定

分析対象となる現代詩は、代表的詩人の成果を集約したものであることを考慮し、日本の現代詩に関しては、伊藤信吉による「現代詩の鑑賞(上・下)」³⁾を、西欧に関しては、集英社編「20世紀の文学 世界文学全集35 現代詩集」⁴⁾および新潮社編「世界詩人全集2 現代詩集IV」⁵⁾を用いた。前者については、21人の作者による250篇を、後者については、35人の作者による326篇の作品(北欧7国,南欧3国)を対象とした。

(2) 陰影表現の整理手順

陰影表現の整理に関しては、初めに、対象作品のすべての文中に現れる陰影に関する表現を抽出する。次に、抽出した表現に対して、陰影の基本構成である被写体、スクリーン^{①)}、季節・時間、陰影の基本タイプ^{②)}(光どり、影どり、陰、鏡映り)の特定を行い、その頻度を整理する。最後に、それぞれの要素について日本と西欧の比較を行い、景観的な特徴を考察する。

3. 日本の現代詩に現れる陰影

日本の現代詩に現れる陰影の表現を抽出した結果、250篇中、30篇(12%)の現代詩が該当した。以下に頻度集計の結果と、日本の現代詩に現れる陰影の景観的な特徴を整理する。

(1) 基本タイプの出現頻度

表1 陰影の基本タイプの出現割合(日本)

①「光どり」	4	シーン(13%)
②「影どり」	13	シーン(43%)
③「陰」	10	シーン(33%)
④「鏡映り」	6	シーン(20%)

※は30作品中の表現数の割合

イブ^{①)}の出現割合が両方ともほぼ同じ割合で高く、約80%を占めている。輪郭線の明確でない「陰」のタイプが多く表現されている。また、「影どり」や「陰」は、個人と社会との葛藤や孤独や死などをテーマとした詩が多く該当し、「光どり」や「鏡映り」は、風景描写や恋愛などをテーマとした詩が該当した。

(2) 季節・時間・気候

季節・時間・気候

季節・時間・気候に関して特定できた表現の頻度を表2に示した。対象現代詩では、視覚現象として陰影が明瞭な輪郭を見せる夏のシーン(景)は抽出されず、冬が最も多く30%を占める。また、時刻は「夕暮れ」が多く、気象では曇りが該当している。このことから、現代詩の中の陰影は、比較的弱い日照が現れる季節や時間帯に多く表現されていることがわかる。

表2 季節・時間・天候の出現割合(日本)

季節	①「冬」 9 シーン(30%) ②「春」 6 シーン(20%) ③「秋」 4 シーン(13%) ④「夏」 0 シーン(0%) ⑤「不詳」 11 シーン(37%)
時間	①「夕暮」 16 シーン(53%) ②「夜」 3 シーン(10%) ③「昼」 3 シーン(10%) ④「朝」 1 シーン(3%) ⑤「不詳」 7 シーン(24%)
天候	①「曇り」 3 シーン(10%) ②「雨」 1 シーン(3%) ③「不詳」 26 シーン(87%)

※は30作品中の割合

(3) 被写体とスクリーン^{①)}

陰影の被写体とスクリーンに関して、表現の頻度を整理した結果を表3、表4に示した。初めに被写体とスクリーンの全体的な表現の傾向として、山や河川などの地形や植物に関する自然系景観要素の頻度が非常に高いことがわかる。また、被写体は、スクリーンと比較して、人工系の要素がやや高くなっている。以下に被写体とスクリーンの具体的な特徴について述べる。

①被写体の特徴(表3参照)

表3 現代詩に現れる陰影の被写体(日本)

自然系 50%(15)	地形 20%(6)	山(2), 森, 林, 河川, 地面
	気象 7%(2)	雪, 星
	植物 17%(5)	花(3), 樹木, 笹の葉
	動物 7%(2)	馬, 鳥
人工系 37%(11)	建物 20%(6)	建築(2), 倉(2), 小屋, 白壁
	人間 17%(5)	人(4), 仏

※は30作品中の割合, ()内は該当数

i)自然系被写体の特徴

表3に示された自然系の被写体は、自然の動きや変化を伝える多様な要素から形成されている。ここでは、1.自然地形のように比較的動きの少ないまとまった大きな陰影を作る大規模な固定型、2.雪や星のような気象現象に伴う離散的でまばらな陰影を作る動的な離散型、3.花や葉のようにきめ細やかな輪郭を持ち、風水によって常に微小な変化を示す変化型、4.動物が草原を駆け抜けるようにスクリーンを速く大きく横切る陰影を作る動的な連続型 の4つの被写体が抽出できた。

ii)人工系被写体の特徴

人工系の被写体は、自然系の被写体と比較して、要素が限定され、動きが少なく静的で連続した形態をもち、日常的な生活場所から若干離れた周縁的、非日常的な場所にある要素が該当している。ここでは、建築物の壁や扉などの変化の少ない連続した陰影を作る固定連続型と、人間のようなゆっくりとした動きの影を作る静的な変化型の被写体が抽出された。また、倉庫や小屋などは日常生活の中心である家屋から少し離れた周辺部の仮想的な要素であり、これらは例えば幼少期などの追憶描写の中で、非日常的な隠れ場所に、静的で連続性のある陰影が表現されていることが特徴的である。

②スクリーンの特徴 (表4参照)

表4 現代詩に現れる陰影のスクリーン (日本)

自然系 57%(17)	地形 37%(11)	道・地面(5),山(2),林谷,荒野,雪
	水面 17%(5)	川面(3),渚,泉
	植物 3%(1)	花
人工系 20%(6)	生活 17%(5) 物・人	障子,戸棚,ガラス,置き写真,陶器,改札口
	人間 3%(1)	瞳

%は30作品中の割合,()内は該当数

i)自然系スクリーンの特徴

表4で抽出された自然系のスクリーンでは、テクスチャ面の凹凸の変化が激しい素材や光の吸収性の高い素材が該当している。ここでは、1.固定されておりテクスチャ面の変化が少なく光の吸収性が高い地形のスクリーン、2.テクスチャ面の時間的な変化が激しく反射性の高い水面のスクリーン、また一例ではあるが、3.花びらのように小さな植物のスクリーンなど

が抽出された。地形のスクリーンでは、道や地面などの人間の歩行視点に伴うスケールと、山林や谷のように眺望点の視界から広がる大規模なスケールの要素に分けられる。また、水面のスクリーンは、「鏡映り」²⁾に限定され、そこで表現される現代詩のテーマは、恋愛や生命感などを詠った³⁾ポジティブな内容や自然描写を行ったものに傾向することがわかった。

ii)人工系スクリーンの特徴

人工系のスクリーンは、建築室内における生活用品を中心に、小さくて移動可能な要素が抽出された。すなわち、ガラス、陶器など身近な生活用品の中でテクスチャや色彩の多様なオブジェ型のスクリーンが抽出された。

③動的な被写体とスクリーンの組合せ

被写体とスクリーンの組合せの中で、相互の動きが顕著であったり、動きの違ったものを組み合わせるなどによって、動的な陰影変化を強調する対象が抽出された。例えば、花と泉、星と瞳、笹の葉と花の組合せが該当し、これらは恋愛や青春感情などのテーマを表現した。

4. 西洋の現代詩に現れる陰影

この章では前章と同様に、西洋の現代詩に表現された陰影の結果を整理し、日本の陰影との比較考察を記述する。

(1) 陰影表現の出現割合

全対象作品における陰影表現の出現割合を西洋の国別に示したのが表5である。日本の場合、その出現割合は12%であったが、西洋では全体として17%となり、日本よりも若干高い割合を得ている。特に、北欧(14%)と南欧(20%)を比較するとその日照の強さに応じた陰影表現の出現割合の変化が指摘できる。

表5 陰影表現のみられる西欧現代詩の割合

国名	表現数/作品数	国名	表現数/作品数
イタリア	6/33 (18%)	フランス	7/39 (18%)
スペイン	8/49 (27%)	デンマーク	3/12 (25%)
ギリシア	6/33 (18%)	ノルウェー	2/5 (40%)
		スウェーデン	4/30 (13%)
		ドイツ	4/42 (10%)
		イギリス	7/55 (13%)
		オランダ	0/8 (0%)
南欧	27/135 (20%)	北欧	27/191 (14%)
全体	54/326 (17%)		

(2) 基本タイプの出現割合

抽出した陰影のシーン表現における基本タイプの出現割合は、表6のとうりである。ここでは、西洋の陰影は「影どり」が特に高い頻度で出現していることがわかる。日本の場合、「陰」の頻度が特徴的であったが、西洋では「陰」の割合が低くなり、その分「影どり」が多くなっている。これは、南欧と北欧の比較においても言及でき、南欧はその日照の強さによって輪郭線の明瞭な「影どり」の割合がより高いのが特徴的である。北欧は、日本と同じく「陰」の表現が若干見られるが、自然植生の差異や、霧・もやなどの気象のもつ情調的な側面も影響していると考えられる。さらに、西欧の場合、陰影の被写体には、石を素材にした建築物が多くみられ、直線的な輪郭線を持つ「影どり」¹²⁾が形成されやすいと考えられる。また、「光どり」と「鏡映り」については、ほぼ日本の結果と一致していることがわかる。

表6 基本タイプの出現割合(西欧)

	(全体)	(%)
影どり	36/67 (54)	
光どり	4/67 (6)	
陰	13/67 (19)	
鏡映り	14/67 (21)	

	(南欧)	(北欧)
影どり	20/34 (59)	16/33 (48)
光どり	3/34 (8)	1/33 (3)
陰	5/34 (15)	8/33 (24)
鏡映り	6/34 (18)	8/33 (24)

該当数/全シーン数(%)

「陰」の頻度が特徴的であったが、西洋では「陰」の割合が低くなり、その分「影どり」が多くなっている。これは、南欧と北欧の比較においても言及でき、南欧はその日照の強さによって輪郭線の明瞭な「影どり」の割合がより高いのが特徴的である。北欧は、日本と同じく「陰」の表現が若干見られるが、自然植生の差異や、霧・もやなどの気象のもつ情調的な側面も影響していると考えられる。さらに、西欧の場合、陰影の被写体には、石を素材にした建築物が多くみられ、直線的な輪郭線を持つ「影どり」¹²⁾が形成されやすいと考えられる。また、「光どり」と「鏡映り」については、ほぼ日本の結果と一致していることがわかる。

(3) 季節・時間

表7 季節・時間の出現割合(西欧)

季節・時間に関して (全体) (%) (%)

特定できる陰影表現の頻度を表7に整理した。日本の場合と対称的に西洋の陰影は、「夏」と「昼」が表現される傾向にある。夏の昼間の強い日照は、乾燥した空気を通り、輪郭線の明瞭な陰影を出現させる。このようなクリ

季節・時間	(全体)	(%)	季節・時間	(全体)	(%)
春	2/54 (4)		夕	7/54 (13)	
夏	5/54 (9)		夜	17/54 (31)	
秋	3/54 (6)		昼	15/54 (28)	
冬	1/54 (2)		朝	4/54 (7)	
不詳	43/54 (79)		不詳	11/54 (21)	

(南欧)

季節・時間	(南欧)	(%)	季節・時間	(南欧)	(%)
春	1/27 (4)		夕	4/27 (15)	
夏	1/27 (4)		夜	9/27 (33)	
秋	0/27 (0)		昼	7/27 (26)	
冬	0/27 (0)		朝	1/27 (4)	
不詳	25/27 (92)		不詳	6/27 (22)	

(北欧)

季節・時間	(北欧)	(%)	季節・時間	(北欧)	(%)
春	1/27 (15)		夕	3/27 (11)	
夏	4/27 (15)		夜	8/27 (30)	
秋	3/27 (28)		昼	8/27 (30)	
冬	1/27 (4)		朝	3/27 (11)	
不詳	18/27 (40)		不詳	5/27 (18)	

該当数/作品数(%)

と「昼」が表現される傾向にある。夏の昼間の強い日照は、乾燥した空気を通り、輪郭線の明瞭な陰影を出現させる。このようなクリアな光と対比する影が西欧では多く表現され、一方、日本では冬の夕暮れ時に映る輪郭線の不明瞭な陰影が特徴的に用いられる。

(4) 被写体とスクリーン

陰影の被写体とスクリーンに関して、表現の頻度を

整理した結果を表8、表9に示した。全体的な傾向としては、日本の結果と比較して被写体、スクリーンとも地形・植物の自然系の景観要素の頻度が、非常に高いことがわかる。また、日本の場合、陰影の構成要素が都市の人工的な景観要素や建築物の室内要素に傾向しているのに対して、西洋では自然景観からなる屋外要素に傾向していることがわかる。以下に具体的な特徴を記述する。

①被写体の特徴(表8参照)

表8 現代詩に現れる陰影の被写体(西欧)

(全体) 該当数/作品数(%)

自然系	地形	気象	植物	動物	人工系	建物	人間	その他
40/67 (60%)	海, 空(2), 山, 岩(3), 断崖, 石	夕日, 雲(2), 波, 水	草(6), 茂み, 垣根, 木(12), 葉群(3)	ひばり, 熊, 牛	8/67 (9)	店, 家, 城砦, 尖塔, 格子扉, 戸	人(10), 傷口, ジブシー, 舌	手(2)
					15/67 (22)	架線, 垂れ幕, 帆布, 灯火(2)	旗, 家具	

(南欧)

自然系	地形	気象	植物	動物	人工系	建物	人間	その他
23/34 (68%)	岩(3), 海, 空, 断崖, 山	夕日, 浪, 雲	草(4), 木(6), 茂み	ひばり, 熊	3/34 (9)	店, 家, 城砦	人(5), 手(2), 傷口, ジブシー	架線, 垂れ幕, 家具
					9/34 (26)			

(北欧)

自然系	地形	気象	植物	動物	人工系	建物	人間	その他
18/33 (54%)	石, 空	水, 雲	木(6), 葉群(3), 垣根, 草(3)	牛	2/33 (6)	尖塔, 格子扉, 戸	人(5), 舌	帆布, 灯火(2), 旗
					2/33 (6)			

i)自然系被写体の特徴

日本の結果と比較して、西欧に特徴的な自然系の被写体をあげると、「牧草群」、「自然地形の岩石」、「空、海、断崖などの海の景の要素」である。これらの特徴を次に示す。

a.「牧草群」

被写体を構成する要素は、地形、気象、植物、動物と多様であるが、植物の割合が南欧・北欧ともに非常に高くなっている。日本の現代詩では、山や森といった大きなスケールか、もしくは非常にミクロな花や葉のような単一の被写体が多く表現されているのに対して、西欧では牧草地における草木の群が多く表現されている。

また、先に示した南欧に「影どり^{*)}」が、北欧に「陰」が多く現れる要因の一つとして、必然的に付随する自然植生の影響、たとえば、南欧に丈の低い暖温帯硬葉樹林、北欧に冷温帯落葉広葉樹林が発達したことにも起因するものと思われる。

b. 「自然地形の岩石」

自然地形の中の石や岩の被写体が表現されたことについても、西欧の乾燥型の気候から植物の少ない岩肌の露呈した地形によって、大きな陰影が形成されやすいことを示していると考えられる。とくに、南欧の結果に顕著に現れている。

c. 「大規模な地形がつくる海の景」

現代時の中で、海や空、断崖などが大きなスケールでまとまって表現され、澄みきった光の中で大きな陰影が明瞭に表現されていることが特徴的である。このような海岸周辺のまとまった大規模スケールの陰影は、日本が山や森に多く表現されるのとは対照的である。

ii)人工系被写体の特徴

表8に示された人工系の被写体は、日本の結果と比較して、人間が被写体となっている割合が高いこと、また、日本にはみられなかった架線、旗など風によって目まぐるしく動くアクティブな被写体など、日常的な生活の活動場所に陰影が表現されることが特徴的である。これは、先に述べた光の当たる場所での「影どり」が中心になっている結果とも呼応する。

さらに、西欧では、「城砦」、「尖塔」など生活や信仰のランドマークとなるシンボリックな建築物が被写体になっているのに対し、日本では「倉庫」、「白壁」など生活の周縁部にある目だたない非日常的な建築物が多いのが特徴的であると考えられる。このことは、西欧は光の中で影が生き、日本は陰の中で影が生きていることを示すものと考えられよう。

③スクリーンの特徴 (表9参照)

i)自然系スクリーンの特徴

自然系スクリーンの占める割合は、日本と比べて非常に高くなっている。日本が山とか谷とか大規模な地形のスクリーンを持ったのに対して、道や地面などの人の生活行動のスケールに対応した比較的小規模なスクリーンの割合が高い。これらのほとんどは影どりであり、明瞭な輪郭線が表現されている。また、海面や水面への鏡映りが多いのが特徴的であるが、これは先

表9 現代詩に現れる陰影のスクリーン (西欧)

(全体)

該当数/作品数 (%)

自然系 47/67 (70%)	地形	丘,地面(9),道(5),フスフサ 雪,町,洞穴(2),石畳,谷,岩棚, 岸,空,堤,天底,川底(2)	29/67 (43)
	水面 植物	川面(4),水面(4),海面(5) 草(4),農場	13/67 (19) 5/67 (7)
人工系 18/67 (24%)	生活	くびき,床(2),テーブル,瓶,ガラス, トタン,砦,ガラス,教会,支柱	11/67 (16)
	人	眼,体,髪,心,人	5/67 (7)

(南欧)

自然系 28/34 (76%)	地形	丘,フスフサ,地面(4),洞穴(2), 川底(2),堤,道(4),空,石畳 海面(4),川面,水面(2)	17/34 (50)
	水面 植物	草(2)	7/34 (21) 2/34 (6)
人工系 6/34 (18%)	生活	くびき,ガラス,床	3/34 (9)
	人	眼,体,心	3/34 (9)

(北欧)

自然系 21/33 (64%)	地形	岩棚,谷,地面(5),天底,雪, 町,道,岸 海面,水面(2),川面(3)	12/33 (36)
	水面 植物	草(2),農場	6/33 (18) 3/33 (9)
人工系 10/33 (30%)	生活	砦,テーブル,瓶,ガラス, 教会,支柱,トタン,床	8/33 (24)
	人	人,髪	2/33 (6)

述したように切り立った崖や山、空などの大規模な被写体が、広大な海のスクリーンへ明瞭な影を映す景を示し、気候風土の固有性に起因していると考えられる。

ii)人工系スクリーンの特徴

人工系スクリーンは、ガラスやテーブルなどの小さな生活用品と、柱、教会、砦などの建築物を中心とした固定型のスクリーンが該当している。日本では室内要素のみが抽出されたが、西欧では建築物の外観が該当しているのが特徴的である。このような建築物の要素が指摘される背景には、西洋の街並建築にみる石と壁による外部空間の分節と、日本の伝統建築における外部空間との連続性との対比が関係していると考えられる。また、そこから生じた外部装飾を特化させる西洋建築と空間領域の曖昧さから内部装飾を特化させる日本建築との対比なども関係しているものと思われる。

5. おわりに

本研究は、日本と西欧の現代詩に表現される陰影の差異を、言葉の頻度を分析することによって把握したものである。ここで得られた陰影の差異を表10に整理した。現代詩という限定されたメディアの調査から、明確な言及をすることは時期早尚であるが、調査結果から把握できた陰影表現の差異は、気候や街並みの差異として説明される部分があると思われる。実証的ではないがそれらを推察して研究のおわりとしたい。

表10 現代詩に現れた陰影（結論）

		日本	西欧	差異の要因
陰影の基本タイプ		「陰」 (柔弱な光・不明瞭な陰)	「影どり」 (明瞭な光と影の対比)	・日照の差異 ・街並み・建築素材の差異 (木と石の建築)
季節・時間		「冬の夕暮れ」	「夏の昼間」	
被写体	自然系	「山・森の景」 大きくまとまりのある植樹 (山、森) 「花の景」 ミクロな微小変化 (花、葉)	「牧草地の景」 広い野原にある草木群 (草木、石) 「海の景」 大規模な地形が作る景 (海、断崖)	・植生の差異 ・自然地形の差異
	人工系	「静的な室内要素」 (建築、障子) 「非日常的な周辺建築物」 (倉庫、小屋)	「動的な屋外要素」 (人、旗) 「日常的なランドマーク」 (教会、城壁)	・空間構成の差異 (連続と分節) ・活動場所の差異 (中心と周縁)

①「日本の陰と西欧の影」

i) 日照の差異（柔弱な光と明瞭な光）

基本タイプや時間・気候などの結果は、次のような日本と西欧の日照の差異を推察させる。すなわち、西欧では、乾燥的な気候^③の影響から、彫りの深い光と影を浮かび上がらせ、輪郭線の明瞭な意匠性をもつ陰どりを作り上げる。しかし、湿気を多量に含んだ日本の空気を通しては、この光線のデザイン効果は程遠く、柔弱な光によって輪郭線の曖昧な陰を形成する。

ii) 街並み・建築素材の差異（木と石の建築文化）

このような気候日照の差異は、精神風土や建築文化と結びついて、特有な陰影を作りあげている。西欧では、石や煉瓦による組構造の建築が発達し、石造りの街並みは、幾何学的で明瞭な陰影を形成し、光と影の対比が特徴的となる。一方、日本では、「陰翳礼讃」に表現されるような建築における繊細で柔らかな陰影の美意識を形成してきた。建築や町並みをつくる土や木などの自然素材は、柔らかな光を生かすためのスクリーンの素材となった。また、外部空間と内部空間を厳密に区別しない日本の伝統的な建築の空間構成は、「奥」を意識するスタティックな陰影を発達さ

せ8)、室内の「陰」を特徴的なものとしている。現代詩では、冬や夕暮れに現れる輪郭線の不明瞭な「陰」が特徴的であったが、それはこのような日本的な風土を物語っているものと考えられる。

②「日本の山や森の景」と「西欧の牧草地の景」

モンスーン型気候の日本と、乾燥型気候の西欧では、植生に大きな差異が生じるが、現代詩の表現に現れた陰影は、その差異の典型を示していると考えられる。すなわち、日本では山や森などのまとまった植樹帯の要素、西欧では点在する牧草群が該当した。

③大規模な地形がつくる海の陰影（地形・気候の差異）

西欧の現代詩に描写された陰影の被写体やスクリーンには、「石」や「岩」が多く表れ、また、「海」や「断崖」などの要素が「影どり」として明瞭に表現されている。岩肌や断崖などが海のスクリーンに映るダイナミックな影どりは、西欧の乾燥した海の景の典型でもあると考えられる。

④陰影が現れる場所性の差異

現代詩に現れる日本と西欧の陰影は、次の空間構成と場所性の差異が確認できた。

i) 静的な室内要素と動的な屋外要素

（空間構成の差異；連続と分節）

ii) 日常的なランドマークと非日常的な建築物

（活動場所の差異；中心と周縁）

このような差異は、建築や街並の差異に起因するものと考えられる。日本の伝統建築は木造の仮設構造で、戸外と外部の融和的な建築が発達し、内部への傾向をもつに対して、西欧では、石や煉瓦による組構造の建築が発達し、分節された外部ファサードが日常生活の中で装飾性をもつと考えられる。そのような中で、日本では、柔弱な陰影ができる室内や、屋外では建築の中心から離れた厠や塀などの静的な場所にできる陰影が現代詩における舞台意匠の典型が現れる。このような背景から、非日常的な場所、建築の中心から周縁部にできる陰影が特徴となる。一方、西欧では、これとは逆に、光が澄みきっているため、外部では光と影のコントラストが激しくなり、物の動きがアクティブな印象で捉えられ、意匠性が特化する。このような背景から、人や旗や架線などの日常的な生活場所にある街の被写体が中心になると考えられる。

最後に、本研究を遂行するにあたり、調査分析を共に議論した京都大学大学院生堀 秀行、梶谷拓生氏、貴重なご示唆を頂いた大阪府河西茂行氏に感謝の意を表します。

<補注>

* (1) (参考文献1より) ; 陰影の基本構成要素は、①光源(太陽、月、照明etc)、②被写体(建物や植樹等の陰影の輪郭を作る被写対象物)、③スクリーン(路面や水面等の陰影の映る面)、④陰影(陰影の視覚現象)、⑤視点場(陰影の鑑賞場)と定義した。

* (2) ; 陰影の基本タイプは、辞書の意味より、①光どり(地(スクリーン)が闇で、光源の光によって被写体が明るく映るタイプ)、②影どり(地(スクリーン)が明るく、被写体が光を遮って、後方にできる暗く映るタイプ)、③陰・蔭(物に覆われた薄ぐらい背面・後方の場所のタイプ)、④鏡映り(鏡のように水面などに被写体自身の姿が映るタイプ)と定義した。

* (3) (参考文献7より) ; 日本は一般に、気候分類上、モンスーン地域に分類され、規則的な四季の移り変わりがあり、熱帯から亜寒帯まで気候上の振幅が大きくなっている。一方、ヨーロッパ(ギリシア、イタリア、スペイン)の地中海地方は、日本とは対称的に降雨量は少なく、夏はアフリカ方面から熱風が吹きつけて、ほとんど雨は降らず、植生についてみるとオリーブやコルクガシのような硬葉樹しか生えない乾燥地域となっている。

7)宮川英二; 風土と建築, pp.34-35, 彰国社, 1979.

8)滝沢健児; 住まいの明暗, pp.5-6, 中公新書, 1982.

参考文献

1)川崎雅史・佐佐木綱; 景観に現れる陰影の心理的評価に関する研究, 都市計画学会論文集No.25, pp.691-696, 1990.

2)川崎雅史・堀秀行; 陰影景観の固有性に関する研究—景観表現に現れる日本の陰影空間—, 土木計画学研究・講演集No.13, pp.81-88, 1990.

3)伊藤信吉; 現代詩の鑑賞(上・下), 新潮文庫, 1954.

4)集英社編; 20世紀の文学世界文学全集35現代詩集, 集英社, 1963.

5)新潮社編; 世界詩人全集2 現代詩詩集IV, 新潮社, 1950.

6)和辻哲郎; 風土, 岩波書店, pp.62-70, 1963.